

DX推進者のための“人間中心DX”実践

このコースは、昨年度「デジタル(DX)時代の業務のデジタルシフトへの考え方・進め方 ～サービスデザインを踏まえた要件定義」というコース名で開催しました。内容が一部重複しますのでご了承ください。



デジタル化は、人を中心に考えて、これからの業務のやり方の進化（シフト）を理解し、再定義します。

本質的にやりたいことをAIと協働しながら整理し、価値を表す要件定義に取り組むことが重要です。

使う人（顧客）目線で、サービスデザインの思考で立案・共有することにより、開発後のユーザとの認識の祖語を減らすことができます。

コース詳細	
研修講座コード	ST011
受講料	¥ 66,000
開催予定	2日間 (12時間) 2026-11-17(火) ～ 2026-11-18(水)
開講時間	9:30-16:30（お昼休み 基本12：00から13：00まで）
前提知識	「DX推進者のための“価値起点DX”入門」を受講済であることが望ましい
対象者	DX推進担当者（自社で内製化・ノーコードのプロジェクトを実施する方など） DX推進担当の支援者 デジタル推進部門の方 デジタル時代の要件定義をゼロから学びたい方
到達目標	<ul style="list-style-type: none">デジタル化に際し、これからの業務のやり方が見える化できるようになる。本質的にやりたいことをAIと協働しながら整理して、価値を表す要件を定義ができるようになる。使う人（顧客）目線で、デザインできるようになる。
講師	(有)ボランチ 2 1 大橋 知子
備考	◎ PMIタレント・トライアングル ：働き方1、パワースキル4、ビジネス感覚7 PMI資格認定の更新について 更新手続きについては、 PMI CCRハンドブック（日本語版） をご参照ください。 ※PMI日本支部のサイトに接続します。

研修内容

<1日目>

0. デジタルの時代とは

1. DX時代のビジネス価値（デジタル時代の仕事）

ビジネスモデルの変化とワークシフト

～ビジネス常識が変わってきた！～いろんなAIと「協働」する

- ・求められるスピード感

2. 業務の見える化ではなく、人間中心に考える要件定義

- ・デジタルで完結するビジネスプロセスを人間中心に考える
- ・価値の見える化
- ・全体から考える(全体最適)
- ・ユーザ主体のストーリー（要件）の定義

～なぜから考える・習慣化

<実践ワークショップ：ビジネスの分析>

- ・ビジネスモデル
- ・ジャーニーマップによる要件定義（仮題）

<2日目>

3. 変化に強いモデリング

- ・複数テーマの分析（優先度、変更管理）
- ・ビジネス分析とプロジェクトの関係
- ・文書ではなく”データ”から本質的に必要なことを見える化

～アプリの民主化、データの民主化、AIの民主化

- ・データは社外からも持ってくる
- ・テストファーストの考え方
- ・機能の要件定義と非機能の要件定義

～本当に使いやすいか？（使いにくいのは生産性を落とす）

- ・自分たちでどこまでやるか、外に依頼するか
（ベンダーロックインされな外部委託のポイント）

4. 現場の変革

- ・作ると使う（開発と運用）はセット
- ・立ちはだかる壁を乗り越えるために
- ・将来的にビジネス変化とともに必ずシステムは変更する～マニュアルは、最初しか見ない
- ・他の業務への影響を分析する～後工程はお客様
- ・ツールに頼る”落とし穴”

5. プロジェクト企画へ

- ・プロジェクト企画のReadyの状態をAIと「協働」でレビュー

<実践ワークショップ：プロジェクト企画>

- ・サービスデザイン・ストーリーのレビュー
- ・サービス・ブループリントからユーザーストーリーへ

◎まとめ / 現場での実践にむけて

※進捗状況により変更となる場合があります。

お問い合わせ先

(株)北海道ソフトウェア技術開発機構 事業部研修課

営業時間: 平日 9:00～17:00

お問合せ: <https://www.deos.co.jp/contact>

電話: (011) 816-9700